

!!
昨年より、ほく彩館へも
出荷しています!

主な商品

小松菜・ほうれん草

地域の 農を支える 生産者

なかうえ
中上

なおひさ
直久
さん(39歳)

箕面市西宿地区



Q 始めたきっかけについてお聞
かせください。

A 実家は止々呂美地区で観光農園を営んでいます。なので農業はずっと身近にあり、物心がついたところから手伝っていました。就農を特別な決断として意識したというより、自然と生活の一部として続けてきた感覚です。農業公社で7年間学んだあと、一緒に卒業する友人からの誘いもあり、卒業のタイミングで、ある友人2人とグループを組んで令和2年に就農し、小松菜の栽培を始めました。学校給食の供給を見据えて、使用量や単価などを調べたところ、周りの生産者と品目が重ならないことが、小松菜栽培を始めた理由です。昨年夏にグループは解散しましたが、この5年間の経験が独立を考えるきっかけになりました。今もそれぞれが自分の農場を構えて小松菜の栽培を続けており、互いに支えています。

Q 生産のこだわりについて

A 最近ほうれん草も作っていますがメインは小松菜で、箕面市の学校給食で使用される小松菜のほとんどを自分たち3人で出荷しています。学校給食では毎月まとまった量が必要になるため、切らず収穫できるよう時期をずらし、季節によって品種を変えながら作付けしています。また、給食で扱いやすいよう、少し大きめに育てることも意識しています。しかし大きくなり過ぎると固くなってしまうので、そうはならない範囲を見極めながら収穫のタイミングを調整しています。連作障害にも注意し、圃場を循環させながら管理しています。

Q 嬉しかったこと・苦労していることはありますか。

A 思い描いた通りに育ったときの達成感は大きいです。学校給食の調理師さんから「大きくて扱いやすい。」父から「綺麗に揃って育っている。」と言



われると励みになります。一方で、毎月決まった数量を出す必要があるため、生育が遅れた際には予定より早く収穫せざるを得ないことがあります。その分、後が苦しくなるので、常に生育状況を見ながら調整しています。



Q これからの目標や夢をお聞かせください。

A 今年の夏に新しい農地を借りることが決まっています。今後も栽培面積を増やし、安定して小松菜を供給できる体制を整えていきたいと考えています。最終的には家業を継ぎ、小松菜栽培・学校給食への供給を続けていきたいと思っています。



ほうれん草



小松菜